

入選

親切の輪

山形県 第四中学校

1年 今岡あい

小学6年生の冬、左ひざの手術をすることになり、私の心は不安でいっぱいでした。1年以上前から痛みがあり、様子を見ていましたが、治療するには手術しかなく、冬休みに入るタイミングで入院することになりました。

入院する前日、不安な気持ちで学校最終日を過ごしていました。すると、クラスみんなが寄せ書きをくれました。そこには、私をはげましてくれる心のこもった温かいメッセージが書いてありました。それを読んで私は、勇気が出てきました。みんなの優しい気持ちがとてもうれしかったです。

手術が終わり、入院中はとても痛みが強く、つらくてつらくて泣いてしまうことがありましたが、寄せ書きを見て、元気をもらいました。松葉杖の練習がとても大変でしたが、無事に退院できることになり、冬休み中は自宅で治療しました。

3学期が始まる時、また私の心は不安でいっぱいになりました。まず、教室が3階なので、階段という大きな壁がありました。リハビリの先生と、お尻を使ってのぼり降りする練習をしましたが、少しはづかしい気持ちもありました。

「友達に何か言われるんじゃないかな。」「みんなに迷惑をかけてしまうかも。」という思いでいっぱいでした。

しかし、そんなことはありませんでした。私が車で登校すると、友達が学校の玄関で待っていてくれました。すぐかけよって来て、「大丈夫?」「ランドセル持つよ。」と優しい言葉をかけてくれて、とてもうれしかったです。階段を登るときもみんなが道を開けてくれて、はずかしかったですが、心が温かくなりました。

その後の日常生活でも、移動教室のときは、歩く速さを合わせてくれたり、荷物を持ってくれたりしました。給食のときも、私がやらなければならなかったことをほかの人がやってくれました。先生方にも大変気にかけていただき、すれ違うときに「足、どうですか?」「困っていることはありませんか?」と声をかけていただきました。学校中の人が私の味方になっていることに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

私は松葉杖生活になったことで、たくさん優しさや思いやりを感じることができました。ささいな行動で、「人は笑顔になり、心が温まる」。それが思いやりなのだな、と実感しました。たくさんの人に支えられ、たくさんの人に迷惑をかけてきたので、今度は、私が支える側になりたいと思いました。

人の気持ちをよく考え、小さな親切の輪をどんどん広めていきたいです。